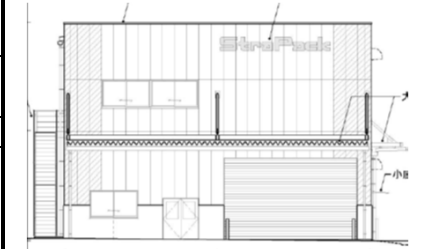




1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ストラック(株)横浜工場整備計画	階数	地上2F
建設地	神奈川県横浜市神奈川区菅田町2800-1	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	400 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,920 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年7月 予定	評価の実施日	2023年1月27日
敷地面積	2,538 m ²	作成者	大和リース(株)
建築面積	1,080 m ²	確認日	2023年1月28日
延床面積	2,062 m ²	確認者	大和リース(株)



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.3

Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.6

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.5

3 設計上の配慮事項

総合	その他
<ul style="list-style-type: none"> サービス性能への配慮。 敷地内外環境への配慮。 エネルギー性能、資源マテリアルの確保に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 特に無し
Q1 室内環境 ・対象外	Q2 サービス性能 ・耐用年数の長い給排水配管を採用している。・階高、壁長さ比率の確保に努めている。・電気配線、通信配線にはケーブルラック配線を採用
Q3 室外環境(敷地内) ・メッシュフェンス設置で防犯性に配慮している。	
LR1 エネルギー ・BPI=0.31。	LR2 資源・マテリアル ・自動水栓に加え、節水型便器の採用。・LGS下地を採用。・有害物質を含まない防水工事のプライマーを採用。・発泡剤を用いた断熱材を採用している。
	LR3 敷地外環境 ・LCCO ₂ 排出率=68%。・光害フェクリストの一部を満たす、広告物照明無し。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

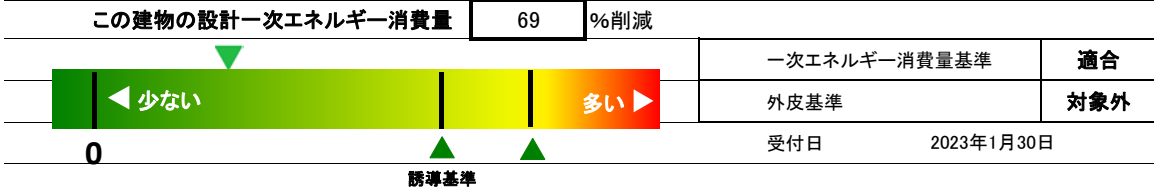


4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。 建物名称 **ストラパック(株)横浜工場整備計画**

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 **5**

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

③BEI_m=0.31。

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【快適・働きやすさ】 **2**

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防災】 **3**

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

⑰給水管:VP、排水管:VP、通気管:VP

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 **2**

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入



CASBEE横浜2022年版v.1.0
ストラパック(株)横浜工場整備計画

バージョン CASBEE横浜2022年版v.1.0

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
				Q 建築物の環境品質						
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 騒音										
1.2 遮音										
1	開口部遮音性能									
2	界壁遮音性能									
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)									
4	界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1	室温	快適・働きやすさ		⑨温熱環境						
2	外皮性能	快適・働きやすさ	健康・安心	⑨温熱環境	⑤外皮性能					
3	ゾーン別制御性	快適・働きやすさ		⑨温熱環境						
2.2 湿度制御		快適・働きやすさ		⑨温熱環境						
2.3 空調方式		快適・働きやすさ		⑨温熱環境						
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1	昼光率	快適・働きやすさ		⑩光環境						
2	方位別開口	快適・働きやすさ		⑩光環境						
3	昼光利用設備	快適・働きやすさ		⑩光環境						
3.2 グレア対策										
1	昼光制御	快適・働きやすさ		⑩光環境						
3.3 照度		快適・働きやすさ		⑩光環境						
3.4 照明制御		快適・働きやすさ		⑩光環境						
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1	化学汚染物質	快適・働きやすさ		⑪空気質環境						
4.2 換気										
1	換気量	快適・働きやすさ		⑪空気質環境						
2	自然換気性能	快適・働きやすさ		⑪空気質環境						
3	取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ		⑪空気質環境						
4.3 運用管理										
1	CO ₂ の監視	快適・働きやすさ		⑪空気質環境						
2	喫煙の制御	快適・働きやすさ		⑪空気質環境						
Q2 サービス性能										3.3
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1	広さ・収納性	快適・働きやすさ		⑫機能性						
2	高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ		⑫機能性						
3	バリアフリー計画	快適・働きやすさ		⑫機能性						
1.2 心理性・快適性										
1	広さ感・景観	快適・働きやすさ		⑫機能性						
2	リフレッシュスペース	快適・働きやすさ		⑫機能性						
3	内装計画	快適・働きやすさ		⑫機能性						
1.3 維持管理										
1	維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ		⑫機能性						
2	維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ		⑫機能性						
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震										
1	耐震性	防災		⑬耐震・免震		3.0	0.50			3.0
2	免震・制振性能	防災		⑬耐震・免震		3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数										
1	躯体材料の耐用年数	防災		⑭部品・部材の耐用年数向上		3.0	0.22			
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	防災		⑭部品・部材の耐用年数向上		2.0	0.22			
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防災		⑭部品・部材の耐用年数向上		-	-			
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	防災		⑭部品・部材の耐用年数向上		3.0	0.11			
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	防災		⑭部品・部材の耐用年数向上		5.0	0.22			
6	主要設備機器の更新必要間隔	防災		⑭部品・部材の耐用年数向上		3.0	0.22			
2.4 信頼性										
1	空調・換気設備	防災		⑰信頼性		3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備	防災		⑰信頼性		2.0	0.20			
3	電気設備	防災		⑰信頼性		3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法	防災		⑰信頼性		3.0	0.20			
5	通信・情報設備	防災		⑰信頼性		3.0	0.20			
3 対応性・更新性										
3.1 空間のゆとり										
1	階高のゆとり					4.6	0.30			
2	空間の形状・自由さ					5.0	0.60			
3.2 荷重のゆとり						4.0	0.40			
3.3 設備の更新性						3.0	0.30	3.0		
1	空調配管の更新性					3.4	0.40			
2	給排水管の更新性					3.0	0.20			
3	電気配線の更新性					3.0	0.20			
4	通信配線の更新性					5.0	0.10			
5	設備機器の更新性					5.0	0.10			
						3.0	0.20			



CASBEE横浜2022年版v.1.0
ストラパック(株)横浜工場整備計画

バージョン CASBEE横浜2022年版v.1.0

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-			-
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57	-	-			1.6
1		生物環境の保全と創出		2.0	0.30	-	-			2.0
2		まちなみ・景観への配慮		1.0	0.40	-	-			1.0
3		地域性・アメニティへの配慮		2.0	0.30	-	-			2.0
3.1		地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-			-
3.2		敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-			-
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-			3.4
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-			3.6
1		建物外皮の熱負荷抑制		1.0	0.20	-	-			1.0
2		自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	-			3.0
3		設備システムの高効率化		5.0	0.50	-	-			5.0
4		効率的運用		3.0	0.20	-	-			3.0
		集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-			-
	4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-			-
	4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-			-
		集合住宅の評価		-	-	-	-			-
	4.1	モニタリング		-	-	-	-			-
	4.2	運用管理体制		-	-	-	-			-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-			3.2
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-			3.4
1.1		節水		4.0	0.40	-	-			-
1.2		雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-			-
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-			-
	2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-			-
2 非再生性資源の使用量削減				3.0	0.60	-	-			3.0
2.1		材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-			-
2.2		既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-			-
2.3		躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-			-
2.4		躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-			-
2.5		持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-			-
2.6		部材の再利用可能性向上への取組み		4.0	0.20	-	-			-
3 汚染物質含有材料の使用回避				4.0	0.20	-	-			4.0
3.1		有害物質を含まない材料の使用		4.0	0.30	-	-			-
3.2		フロン・ハロンの回避		4.0	0.70	-	-			-
	1	消火剤		-	-	-	-			-
	2	発泡剤(断熱材等)		5.0	0.50	-	-			-
	3	冷媒		3.0	0.50	-	-			-
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-			3.5
1 地球温暖化への配慮				4.2	0.33	-	-			4.2
2 地域環境への配慮				3.3	0.33	-	-			3.3
2.1		大気汚染防止		5.0	0.25	-	-			-
2.2		温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-			-
2.3		地域インフラへの負荷抑制		2.5	0.25	-	-			-
	1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-			-
	2	污水处理負荷抑制		3.0	0.25	-	-			-
	3	交通負荷抑制		1.0	0.25	-	-			-
	4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-			-
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33	-	-			3.1
3.1		騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-			-
	1	騒音		3.0	1.00	-	-			-
	2	振動		-	-	-	-			-
	3	悪臭		-	-	-	-			-
3.2		風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-			-
	1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-			-
	2	砂塵の抑制		-	-	-	-			-
	3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-			-
3.3		光害の抑制		3.7	0.20	-	-			-
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		4.0	0.70	-	-			-
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-			-
上記以外の重点項目				-	-	-	-			-
<事務用途>				-	-	-	-			-
知的生産性向上への取組		快適・働きやすさ		1.0	-	-	-			-
<住宅用途>				-	-	-	-			-
健康と安心				-	-	-	-			-
1		化学汚染物質の対策		-	-	-	-			-
2		適切な換気計画		-	-	-	-			-
3		結露・カビ対策		-	-	-	-			-
4		犯罪に備える(共用部の防犯対策)		-	-	-	-			-